

【月刊】キリスト教書評誌

# 本のひろば

June  
2020 6

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2020年6月1日発行（毎月一回発行）第750号

● 出会い・本・人

言コトバは神であった 野村 信

● 特集 日本における宣教・伝道を学ぶには

この三冊！ 石田 学

● エッセイ

「藤井武記念講演集」I・IIを上梓して 佐藤全弘

● 本・批評と紹介

野村 信、吉田 新編 苦難と救済 住谷 眞

富坂キリスト教センター編 奪われる子どもたち 大嶋果織

高橋由典著 続・社会学者、聖書を読む 川中子義勝

袴田康裕著 教会の一致と聖さ 藤本 満

宮本久雄、石井智恵美編

押田成人著作選集I 深みとのめぐりあい 小暮康久

佐藤全弘著

藤井武記念講演集I、II 『わが心の愛するもの』、『聖名の

ゆえに軛負う私』 内坂 晃

日本キリスト教団出版局編

説教黙想アレテニア特別増刊号 伝道する説教をしよう 齋藤真行

D・T・ステュワート、A・L・ポーター著／魯 恩碩編訳

ヨシヤの改革 焼山満里子

島田 恒、濱野道雄著 教会のマネジメント 宇田川元一

石丸昌彦著 神さまが見守る子どもたちの成長 小島誠志

関西学院大学神学部編 聖書と現代 山口希生

既刊案内  
書店案内



2020年5月22日刊行予定

## 信仰生活ガイド 《全5巻》 主の祈り 林 牧人 編

第1回  
 配本

『信徒の友』記事を再編集した信仰案内シリーズ第1弾。新型コロナウイルスへの不安が募る今こそ、キリスト者の祈りの原点「主の祈り」に立ち返ろう。主の祈りを概説し、各言葉を優しく丁寧に解説。 ◆四六判 並製・128頁・1,430円

### シリーズ刊行案内

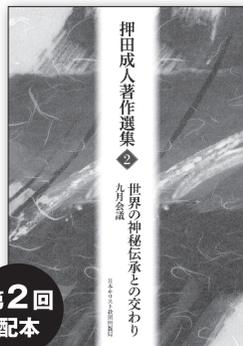
『十戒』6月刊行予定 『信じる生き方』10月刊行予定  
 『使徒信条』7月刊行予定 『教会をつくる』2021年1月刊行予定

## 押田成人著作選集2 《全3巻》 世界の神秘伝承との交わり 九月会議 宮本久雄／石井智恵美 編

信州・高森草庵で思索と労働の日々を送った押田成人（しげと）神父の著作選集、第2集。ヒンドゥー教やイスラム教などの世界の伝統的宗教との出会い、インドや韓国で霊的生活を営む人々との交わりを描く。

2020年5月25日刊行予定

◆A5判 上製・260頁・2,970円



第2回  
 配本

シリーズ  
 刊行案内

『1 深みとのめぐりあい——高森草庵の誕生』 2,970円  
 『3 いのちの流れのひびきあい——地下流の霊性』 2020年9月刊行予定



## 洗礼を受けるあなたに キリスト教について知ってほしいこと

越川弘英／増田 琴／小友 聡／柳下明子／山本光一  
 求道者、洗礼志願者の学びのための入門書。人間、宗教とは何かという広い問いから始まり、聖書・教会へと焦点を絞って洗礼の意義を解説、受洗後の信仰生活・社会との関わりについて手引きする。受洗準備テキストとしても役立つ。

2020年5月25日刊行予定

◆四六判 並製・152頁・1,760円



ロゴス

## 「言は神であった」

野村 信

音楽でも絵画でも、最高傑作と呼ばれる作品は、何度聞いても見ても飽きることがなく、いつも新しく胸を打つ何かを秘めています。それは作曲家や製作者が自らの内に抱いた深い感動を作品という形にして永続してくれたからです。聖書もまたそのような性質を持っており、著者（や編者）が抱いた語りきれない驚きや喜びを、いささか稚拙な言葉で何とか表現しようと努力して生まれた書物なのです。彼らは何と、もどかしい思いで書き留めたことでしょうか。

その一人、ヨハネは生涯心の中に溢れていた感動を後世に遺そうと努めました。その結果、キリストの生涯を描く作品では、熟考の果てに「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。」と書き出し、人々へ宛てた手紙の冒頭では、「初めからあったもの、私たちが聞いたもの、私たちの眼で見たもの、私たちが手で触れたもの、すなわち命の言について」と書き始め、「私たちの喜

びが満ちあふれるために」でようやく一息ついていきます。

現代の私たちは、聖書の著者たちの感動や願いをどれだけ聴いているでしょうか。彼らが伝えようとした巨大な世界、喜びと感動の出来事をどれだけ読み取っているでしょうか。そう考えてみると、私たちは自分の共感力、想像力の弱さを嘆かざるを得ませんし、聖書の独特な読み方を身に付ける必要があることに気づかされます。そしてこれは神に対する信仰と信頼がないと出来ない作業であり、霊的な働きと深く関わります。

振り返れば、私自身が聖書をこのように読むことが出来るようになったのは、大勢の信仰の先達のおかげです。彼らはなんとたくさんの手引書を後世に遺してくれたことでしょう。これからも聖書から感動を掘り起こす楽しい旅を続け、かつそれを敷衍してくれた大勢の人々の作品に触れ、示唆を受けたいと願っています。

（のむら・しん＝東北学院大学教授、宗教部長）



# 日本における宣教・伝道を学ぶには ▼この三冊！

石田 学 (いしだ まなぶ・日本ナザレン教団小山教会牧師)

『日本における宣教・伝道を学ぶには』として三冊を選ぶことは、とても困難なことでした。あまりに重要で有意義な本が数多く存在していますから。しかし、それら多くの書物の中から、今回は以下の三冊を選んで紹介させていただきます。

レスリー・ニュービギン著『ギリシャ人には愚かなれど』

宣教学と呼ばれる研究領域は、おそらくキリスト教探究の分野の中でもっとも幅広い領域にまたがる、実践的・

ことだと思えます。新約諸文書が宣教の神学の視点から研究されるようになりました。福音と文化の関係が注目されるようになりました。文化人類学と社会学が方法論として宣教論に適用されるようになりました。七〇年後半から八〇年代にかけて、この分野の先駆けとなった一人が、レスリー・ニュービギンです。

学術的活動であると同時に、神学的研究としてはかなり新しい分野です。宣教学は、教会がこの世界において、何のために、何を目指して存在し、誰に、どのような仕方、何を宣べ伝え、何を表すのかを探究します。それはもちろん、教会が最初から直面してきた課題であり、使徒の時代から絶え間なく取り組んできたことでした。しかし、近代宣教学が世界各地で急速に発展し、関連著作が爆発的に生み出されるようになったのは、一九八〇年からの

ニュービギンはイングランド出身でスコットランド長老教会からインドに宣教師として派遣され、南インド合同教会の設立に貢献して主教に選任されました。四〇年余りインドで活動し、エキュメニズム運動にも関与して、七四年に引退しました。イングランドに戻ったニュービギンが体験した衝撃が、その後の宣教学者としての働きに重大な影響を与え、この著作を執筆する動機ともなっています。帰国したイングラントは、かつてニュービギンがイン

ドに渡った時とは文化的・社会的に大きく様変わりし、異教社会であると感じさせられたのです。キリスト教世界であったことは過去となり、いまや宣教地である西欧世界でキリスト教を宣べ伝えるとはどういうことなのか。それがニュービギンの新たな課題・挑戦となりました。

本書はニュービギンの著作の中でも最も広く読まれ、それゆえ最も大きな衝撃を与え、宣教学への関心を劇的に高めたという点で、近代宣教学を知る上で最善の一冊です。ニュービギンが本書で分析するのは近代西欧社会であり、その文化的社会的現実に対して、何を、どのように福音として宣べ伝えるかを提言しています。本書を読んだなら、ニュービギンの語る近代西欧社会の特徴が、ほぼそのまま近代日本社会に当てはまることに気付くことでしょう。それもそのはずです。日本は

明治初めから、近代西欧社会の制度と仕組みを取り入れてひたすら近代化を目指し、いろいろな意味で西欧世界の問題を取引して、現代に至っているからです。しかも、日本は近代化すると同時に精神風土と社会構造において西欧化を拒絶してきたことも事実です。それが日本の宣教・伝道を困難にしている要因の一つです。本書は日本で宣教・伝道の働きを考える上で、重要な手がかりを与えてくれます。

**E・ツェンガー著『復讐の詩編をどう読むか』**

日本のキリスト教徒が人口比でパーセント以下であることを考えると、聖書がいかにこの割合を越えて日本人の間に普及しているかに驚かされます。明治以降の文化人、作家たちが聖書に関心を抱いてきたこと、早くからミッション・スクールが設立されて生徒たちに聖書を紹介してきたことが

関係しているのでしょう。しかし、聖書はキリスト教伝道においては、両面があります。人々に慰めと導きを与え、人生の道標として用いられると同時に、聖書の中にある暴力、不寛容、殺戮、復讐などが、人々を不快にし、聖書の神とキリスト教に対する嫌悪を抱かせもしてきたからです。日本に限らず欧米でも、知識人や文化人の間でキリスト教に対する反感が根強い原因は、キリスト教の歴史の中で繰り返されてきた暴力と、聖書が語る暴力と報復にあります。とくに一神教の神がいかに不寛容で容赦ない神であるかが指摘され、神が報復を命じ、復讐を神に祈り求める聖書の記述が、キリスト教に対するつまずきの原因となつていきます。こうした聖書の記述をどう理解し、解釈すべきなのでしょう。多くの場合、暴力的で不寛容な部分や復讐を祈る箇所を、朗読や説教箇所から省略し

てきました。詩編の場合も、暴力や復讐を祈る箇所は賛美や交読詩編から削除されています。しかし、聖書そのものから削除してしまうことはできませんから、問題は根本においては解決されません。そもそも、聖書の一部を削除するという自体、正当性があるかが問われます。こうした課題をどう克服するかは、まさに宣教・伝道の課題です。

本書は詩編に限定されていますが、正面からこの問題を取り扱っているので、暴力的な言葉や復讐の祈りに戸惑い、困惑しているキリスト者に光を与えてくれるはずで、ツェンガーはこう結論付けます。「敵に関する詩編はそれ固有の状況的カイロス（時）を有している。すなわち、苦しむ人に嘆きを禁じるのは彼らの発言を禁じることであり、その結果人間としての根本的な行為を彼らに禁じることになる」(二

〇〇頁)。極限の中で自ら復讐するのではなく、神に悲嘆と怒りを訴える。このことがイマジネーションを持つ人に共感と理解を呼び起こさないはずはありません。キリスト教の神は不寛容であり、キリスト教は嫌いだ。そう主張する人たちへの弁証の手がかりを、本書は与えてくれます。

越川弘英編著、石田 学、松田和憲、鈴木脩平、濱野道雄著 『宣教ってなんだ？』

わたし自身が関係した本で恐縮ですが、この一冊を紹介したく思い、取り上げました。本書は「現代の教会を考えるブックレット」シリーズの三冊目として出版され、手頃な分量と値段で、手に入れやすい一冊ですが、日本における宣教・伝道について多くの提言と示唆を与えてくれます。

本書は三部で構成されています。第一部は石田が「日本の宣教を考える」

が、逆の主張もあり、どちらかに限定する主張もありと、統一の理解がないのが現状です。松田論文が混乱している現状に筋道を示してくれるのではないかと思います。

第三部は越川、鈴木、濱野、石田による鼎談「宣教の現実と課題」です。この対談は実に楽しいものでした。言いたいこと・日頃考えてきたことを自由に、思い切り話すことができて快感

と題して、日本における宣教の働きを概観し、教会が共同体としての在り方を取り戻す可能性について提案しています。第一章でキリスト教の現状を簡単にまとめ、第二章は「日本においてキリスト教はどのような宣教をしてきたか」、第三章は「宣教共同体としての教会」と題して、対抗的共同体としての教会について論じています。教会を礼拝者の共同体、寄留者の共同体、弟子の共同体、世を福音化する共同体という視点から捉え直し、教会の将来の在り方を展望しています。

第二部は松田が「21世紀における『宣教の神学』を探る」と題して、ミッシェル・デイの日本における展開を論じています。この中で松田は、ミッシェルとエヴァンジェリズムの意味と関係について整理し、定義しています。一般にはミッシェルを宣教、エヴァンジェリズムを伝道と訳す場合が多いです

でした。それだけに興味を持って読んでいただけだと思います。また、これからの日本宣教、伝道を考える上で、なにがしかの示唆と励ましを得ていただけのものと信じています。

### 『ギリシャ人には愚かなれど』

福音と西洋文化

レスリー・ニュービギン：著

矢口洋生：訳

新教出版社

2007年刊

四六判210頁

2200円(税別)



### 『復讐の詩編をどう読むか』

E. ツェンガー：著

佐久間 勤：訳

日本キリスト教団出版局

2019年刊

A5判216頁

3600円(税別)



### 『宣教ってなんだ？』

現代の課題と展望

越川弘英：編著

石田 学、松田和憲、鈴木脩平、

濱野道雄：著

キリスト新聞社

2012年刊

A5判181頁

1600円(税別)



# 『藤井武記念講演集』Ⅰ・Ⅱを上梓して

佐藤全弘

二十年語りつづけ、十年間引き出しに収めていた二冊を世に出して、心安らかになった。

この二冊は、一九九〇年十月七日から二〇〇八年十月五日まで、年一回名古屋で行った「藤井武記念講演」十七篇と、藤井武と友人たちとの交わりを扱った二篇から成る。

藤井は一八八八（明治二一）年一月十五日に生まれ、一九三〇（昭和五）年七月十四日自宅で持病の胃出血で亡くなった。四十二歳だった。その一〇九日前の三月二十八日には、師の内村鑑三が六十九歳で没し、その葬儀に当たり、また後日二回行われた記念講演会に当たり、内村のキリスト教史上の意義を藤井は強く語った。

藤井武は喬子夫人と一九一一年に結婚、五人の子をもうけ、一九二二年十月一日、二十八歳の夫人に先立たれた。まだ三十四歳にして三男二女とともに、藤井は八年間独身で過ごしたのだった。

さてこの藤井武記念講演会は、藤井武の義弟に当たる中店から出され、戦後全十巻で岩岡書店から選集も出た。しかし岩波の全集が終わった一九七二年以後、二〇二〇年の現在まで、全集は重ねては出ず、単行本も出ていない。研究書も私の本書二冊だけである。

藤井武が四十二歳で死んだ時、弟子たちは藤井に学んで長くて十年、聖書もキリスト教もまだ十分究めておらず、師の思想・信仰を継承発展すべくもなかった。

藤井自身も急死は予想しておらず、その思想・信仰の粹を、祈りつつ日々言葉に盛り、原稿としていた、とりわけその密度高く、聖書と日本史と世界史をふまえ、ダンテの『神曲』、ミルトンの『楽園喪失』と並ぶ、人類の信仰詩の大・作・たるべき『羔の婚姻』は、最終巻下篇の十五歌で、はからずもペンは落ち、あと二十一歌（二年九ヶ月分）での完

山博一先生が主催される集会在、毎年十月一日近くの日曜日に名古屋で行い、また仙台でも同じ日に開かれていた記念講演会で、私はこの例を見ない講演会を二十年にわたり続けて行ったのだった。

そのテーマはどれも藤井武が取り上げた主題で、以下それらを列記しておきたい。

- (一) 宗教思想——万人救済、永生、摂理、歴史、武士道、仏教、神道。
- (二) 日本の現状——社会問題、思想問題。
- (三) 師と友。
- (四) 自然——地震、災害。
- (五) 家庭——妻、エロスとアガペー。
- (六) 世界の思想家——フランチェスコ、ルーテル、カント、マルクス。

しかしながら、藤井武は今や忘れられた人となっている。その著作は戦前二度、戦後一度 十巻の全集として岩波書

成は惜しくもゆるされなかった。——しかし私は、妻を天に送ってから和歌を集中して詠み始めて十五年、今一万首を越えるに至り、詩をいささか味わいうるかど独り悦ぶ。いまここに、三十年前から、中山博一先生のご高配のもと名古屋で二十年間行わせていただいた藤井武記念講演を、かねての志のもと二冊にまとめ、先人に関する私の本には必ず添える一枚物の略年表をも付して、世に送り出すをえたことは、私の何よりの喜びとするところである。

（さとう・まさひろ）大阪府立大学名誉教授  
『わが心の愛するもの——藤井武記念講演集Ⅰ』、『聖名のゆえに軛負う私——同Ⅱ』共四六判・Ⅰ三七二頁、Ⅱ四四四頁・本体各二五〇〇円＋税・ヨベル）

## 聖名のゆえに軛負う私

——藤井武記念講演集Ⅱ

まっただきを求め、自然を愛し、寂しさにむせび泣く。熱き血潮に横溢する、藤井武を現代に！

無教会の内村鑑三の高弟にして、激動の時代を預言者の如く駆け抜けた藤井武。42年の生涯に限りない愛情と敬慕を込め、その実像を今に伝える働きをライフワークとしてきた著者・佐藤全弘の講演集全2巻！

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税別)

ヨベルの新刊案内

### 佐藤全弘 [著]

好評発売中!



わが心の愛するもの  
藤井武著  
46判・372頁  
2,500円  
ISBN978-4-907486-98-3

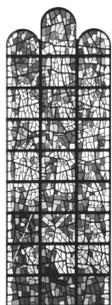


聖名のゆえに軛負う私  
藤井武著  
46判・444頁  
2,500円  
ISBN978-4-907486-99-0

人生の苦難との戦いに  
示唆を与える論集

〈評者〉住谷 眞

苦難と救済



闇の後に光あり

野村 信・吉田 新編

文芸春秋

苦難と救済

闇の後に光あり

野村 信、吉田 新編

本書は、東北学院大学が二〇一八、一九年度に「苦難と救済」というテーマで実施した複数の講演会とシンポジウムの成果を一冊の本にまとめたものである。

書物は四部から構成されている。第I部は旧約聖書、第II部は新約聖書、第III部はカルヴァンの詩編講解とキルケゴールが取り上げられる。第IV部はカルヴァンの戦争と平和についての考察に続き、「殺戮時代」における後期カペナンターの苦難の歴史が取り上げられる。

この四部構成の中に全部で十一の論考が収められている。どれも読みごたえのある論文で、「苦難と救済」という統一テーマの下で専門家が個性的に取り組みつつ、しかし全体としてバランスよくまとまっている。

その中で私にとって教えられたこと、感じたことを以下に記して書評に代えたい。第I部第一章の「詩編二二編に

おける苦難と救済」では、第二イザヤの苦難が代理苦であるのに対し、詩編二二では関係性の欠如が苦難の根源であり、この関係性の欠如が「貧しい人」として共同体の一員となることで回復されると説かれる。背景にある貧者神学と、孤絶からの解放ということを学んだ。

第I部第二章の「ヨブ記における苦難の問い」では、ヨブの苦難が「理由のない」ものであることがサタン、神、ヨブが発する「ヒンナム」(理由なく)という鍵語から解き明かされる。苦難の理由がないということは不条理ではなく、「無由」の自由へと開かれ神による創造世界と自己の存在による肯定へ導くのである。これも新たに学んだことの一つ。

第II部第三章の「パウロの「十字架の神学」から見た苦難の問題」は、パウロ神学においては、イエスの「死」と

「十字架」、複数形の「罪々」と単数形の「罪」を区別すべきであるとされ、イエスの「死」と複数形の「罪々」が結びついたヘブライスト的な贖罪の縛りのパウロ理解から解放されねばならないと言う。日本のキリスト教は贖罪論を中心にしてきた。私も牧師として「十字架による罪の贖い」と講壇でよく説くが、贖罪論は論理構成が難しいので、むしろ和解論に立った方がよいかも知れない。

第III部第一章の「私を見捨てた神を呼ぶ」では、詩編講解に見られるカルヴァンの苦難理解が解き明かされる。翻訳がやや分りにくいのが、彼なら言いそうなのが書いてある。彼にとり苦難は憐れみ深い神に悔い改めを求める機会とされる。カミュの『ペスト』の中でパヌルー神父がペストは悔い改めようとする人間に神が下した裁きだと説教する場面を思い出した。

第II部第三章では、本書の副題である「闇の後に光あり」という言葉が、十六世紀半ばからジュネーヴで用いられる

ようになった標語 *post tenebras lux* から取られたものであり、カルヴァンの宗教改革と結びついた語であることを知った。

最後の章は、清教徒革命後のスコットランドに到来した「殺戮時代」における後期カペナンター(契約派)、特にその代表者であるリチャード・キャメロンについて初めて光を当てたものとして意義深い。

書評を書いている今、教会は主イエスの受難の道行きを覚えるレントの期間にあり、東日本大震災から九年目、世界は新型ウイルスによる新たな病魔との戦いの只中にある。本書が、私たちの人生に襲い掛かる様々な苦難とそれとの戦い、救済について示唆を与えるものとして、多くの人に読まれることを期待したい。

(すみたに・まこと 日本キリスト教会茅ヶ崎東教会牧師)

(四六判・四〇〇頁・本体三二〇〇円+税・教文館)

# 心を痛めるおとなたちを 勇気づける一冊

〈評者〉大嶋果織



奪われる子どもたち  
貧困から考える子どもの権利の話  
富坂キリスト教センター編

「子どもの窮状は、隠されています。ふつうに眺めて見えて見えません」と序文に書かれている。それってどういうこと？

例えば、執筆者の一人、糸洲理子が保育士として働いていた時、お腹が痛いと言き叫んで倒れた子どもがいた。すぐにはわからなかったのだが、極度の空腹状態だったのだ。糸洲は言う。「大人は、……自らの意思や理由があつて、ご飯を『食べない』という選択ができます。しかし、幼い子どもは自らの意思で『食べない』ことを選択するのはなく、基本的な衣食住や適切なケアなど、大人の側の事情で適切に養育されるはずの条件が欠けた場合に『ご飯が食べられなくなる』のです。……そして、多くの場合、そのような状況は隠される傾向にあります。それは、おとなが見ようとしなければ、見えてこないのです」（二〇〇頁）。

中学生対象調査の結果から……西島 央  
第5章 今晚、泊るところのない子どもたち——子どもシエルトアの現場から……坪井節子  
第6章 人はパンだけで生きるものではない——貧困の子どもとスピリチュアルペイン……前田美和子  
第7章 子どもを受け入れるイエス——マルコ福音書における貧困と子ども……今井誠二  
第8章 社会関係資本のワンピースになる……小見のぞみ  
から生じる困難の実相が明らかにされ、伴走者としてのおとなができることは何か、してはいけないことは何か、キリスト教信仰とどうかかわるのかなど、考える手がかりがたくさん示されている。それも多様な形で。

本書は、隠されている子どもの窮状を「あらゆるセンサー（感性）と知性、能力」を働かせて見ぬき、子どもがそこから立ち上がって、自分の人生を歩いていけるように手伝おうとしている活動家、教員、研究者、弁護士、牧師など八名によって執筆されている。各章の題と執筆者のお名前を紹介しておこう。

- はじめに——子ども自身のエンパワメント（何よりも大切なこと）……小見のぞみ
- 第1章 子どもには守られるべき権利がある——子どもへの権利条約について……浜田進士
- 第2章 子どもへの貧困の実態と社会政策……宮本みち子
- 第3章 ウチナンチュが語る沖縄の「子どもの貧困」——沖縄から見る子どもの人権と平和……糸洲理子
- 第4章 「貧困」は子どもの将来にどう影響するのか——

筆者は本書を読んで、耳を塞ぎなくなる虐待事件のニュースとようやく向き合えるようになった。子どもには力がある。おとなたちが、そこにいる子どもにも関心を持ち弱くても多様な仕方につながっていくことができれば、子どもは奪われた力を取り戻し、立ち上がっていくことができる。そのためにはまず、目を逸らさないことが大事だと思えるようになったからである。

本書は、子どもの窮状に心を痛めるおとなたちを勇気づけ、彼ら彼女らを取り巻くネットワークのひとかけら（one piece）になろうと思わせてくれる一冊である。

（おおしま・かおり）共愛学園前橋国際大学教員  
（四六判・二三六頁・本体一八〇〇円＋税・教文館）

## 日本語で書き下ろす聖書注解



# NTJ 新約聖書注解 第1、第2、第3ヨハネ書簡

三浦望

論敵との分離がヨハネ共同体に与えた傷、その癒しと新たな一致の再構築を奨励する手紙を、日本におけるヨハネ書簡の第一人者が綿密に解説。 A5判・506頁・6600円

## 世界最高峰のローマ書注解



# 註解 ローマの信徒への手紙

C・E・B・克蘭フィールド 山内眞訳

定評ある英国の註解シリーズ、ICC『ローマ書』の簡訳改訂版、待望の邦訳。最難関にして重要なパウロ神学の到達点を学ぶ全ての信徒・教職必携の名著。 A5判・546頁・11000円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp 《価格10%税込》  
<http://bp-ucci.jp>

# 出来事に着目して聖書を読む

〈評者〉川中子義勝

続・社会学者、聖書を読む



高橋由典

続・社会学者、聖書を読む  
高橋由典著

「社会学者」が「聖書を読む」？ 書名に喚起されるこの問いに対して、著者はまず専門家（聖書学者や牧師）としてではなく、素人として読むと答える。漫然と読むのではない。聖書のテキストに触発され、「現代人の目から見て（なぜ）と突っ込みたくなる」そのような「問い」が立ち上がるとき、その「違和感」を、経験や知識を総動員しつつ解いていくという。その問いには社会学者の立場も映されること。その「問い」から、行為する意図に先だつて「起きてしまうこと」（著者の理論では「体験選択」という）への着目が導かれたというが、この本は理論の詳述で読者の頭を悩ませたりはしない。各章毎に示される「なぜ」に即して聖書を読んでいくとき、喜ばしい発見とともに、著者の深い思考が裏書きされているのに気づく。何かを行為しようと思志決定する前に「起きてしまう」

出来事。そのような事例として、聖書の記述から一二の箇所が選ばれている。そこに発せられる「なぜ」は様々であるが、初めの二章では、イエスの振舞いについての問いが立てられる。「小犬とパン屑」（マタイ一五・二二―二八）、「罪人を招くために来た」（マタイ九・一三）。イエスの自民族中心主義や外国人差別の言葉に対する違和感、また、罪人や異邦人、すなわち当時の社会規範から逸脱した人々に対するイエスの対応や共食がなぜ生じたか。考察に際して、著者は（知識社会学の言う）「イエスの社会化」を前提とする。個人の意識や価値観は社会のそれに深く結ばれている。イエスの考えや当座の反応もまた、そのような社会的拘束の内にあるが、これを突破する出来事が「起きてしまう」。これを誘発したのは、イエスの「やむにやまれぬ気持」であり、この深い「憐れみ」によって「垣根」は

超えられた。イエスの癒しや業は、「明確な意図をもって進められる行為」というより、起こってしまった「想定外の出来事」だと、著者は言う。さらに、罪人と世間の間の差違の瑣末に鑑みて、「罪人を招くために来た」という普遍化された使命の自覚が語られた、と著者は結ぶ。

その様な、意図に先立って起こる「出来事」への注目は、イエスの言葉を聞く側にも向けられる。「真珠を豚に投げてはならない」（マタイ七・六）、また「狼の群れに小羊を送る」（ルカ一〇・一―三）という箇所。「豚」や「狼」とは誰かと問われ、真珠を「持っている」という自覚や、福音を担いゆく者の自恃が問題視される。「こちら側の変化がすべての始まり」と、既存の理解を反転させ、神の愛へと収斂していく解釈に、喜ばしい発見を味わう。同じく、

詳述は出来ないが、「ヨセフの涙」（創世記四三・二九―三〇）の背後に神の愛を見出す読解には、その着目に目が覚める思いを味わう。また著者の主宰する聖書研究会の経験から、場を困惑させる女性の逸話が「知らぬ間になされる贈与」の格好の例として挙げられる箇所は、同じく学生の聖書研究会に関わってきた者として、深い共感を覚えた。著者は「あとがき」に、教えや教訓への関心からではなく、「起こること」への関心から聖書を読むと述べ、「信じる」ことの中心に「そうなってしまう」という変化があり、これが実は「信仰」の中心だと述べる。「宗教」「教義」「説教」「教育」等々、信仰を「教え」の理解と捉える風潮の根強いこの国の風土において、「出来事」の真実への示唆は重い。

（四六判・二八〇頁・本体一八〇〇円＋税・教文館）



## JKに語る！ 新約聖書の 女性たち

説教集

久野牧

HISANO Nozomu



カタブツ牧師  
×  
フリーダムJK

絶対に重ならない2人の  
絶妙なマッチ！  
いざ、キックオフ！

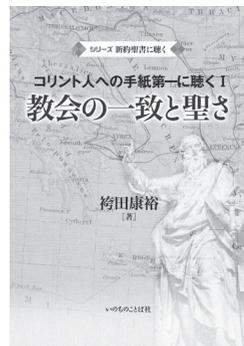
A5判変型  
定価【本体1,600＋税】円  
ISBN978-4-86325-121-2



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

# 御言葉の「論理を大切にする」 講解説教

〈評者〉**藤本 満**



## 教会の一致と聖さ

コリント人への手紙第一に聴くI  
袴田康裕著

『聖書 新改訳2017』の発行とともに、「シリーズ・新約聖書に聴く」の刊行が始まりました。新しい訳で聖書を読むことで信仰を新たに、聖書を変更した変化と喜びは、説教に反映されて会衆に届けられることが、一番期待されているのではないのでしょうか。

評者がこの企画について聞かされたとき、だれがどの書を執筆するのか、特に第一コリントの手紙については、たいへん興味がありました。評者自身、牧する教会で毎年各書の講解を試みてきました。しかし自分は第一コリントの手紙には手を出さないのでないかと諦めています。それは、あまりにも多岐にわたる教会の内的問題、また当時の文化的な課題にパウロは入り込んでいて、それらを学んで、現代に意味を引き出すには、勉強不足であると思うからです。

牧師泣かせの第一コリントの手紙を、三巻にわたって執

そのとき著者は、鍵となる言葉や表現を軸に説教を組み立てます。一つ取り上げてみます。第一コリントの手紙第三章五〜九節に、「パウロ、アポロ」と牧師への愛着によって分派の状況が記されています。この箇所から、著者は、以下の流れで語ります。

一、パウロもアポロも、福音宣教の「奉仕者」にすぎない。牧師は給仕であって、主人ではない。牧師の権威は「しもべ」のそれであって、支配者のように自分の存在を大きくしてはならない、と。

二、次に教会の建てあげのために「多様な働き」が必要であることを聖書に沿って説明します。「私が植えて、アポロが水を注いだ」ように、多様な賜物、異なる地域性と歴史性、その中で多様な働きをなす者を神

ヨベルの新刊案内

世界の注目を集めた「キフォード講義」  
**宇宙の筋目に沿って**  
宇宙の筋目に沿って  
キフォード講義  
宇宙の筋目に沿って  
キフォード講義  
宇宙の筋目に沿って

スタンリー・ハワーワス 東方敬信訳  
世界の注目を集めた「キフォード講義」  
宇宙の筋目に沿って  
キフォード講義  
宇宙の筋目に沿って  
キフォード講義  
宇宙の筋目に沿って

フリーツ・ブリー  
岡田聡訳  
実存の神学

フリーツ・ブリー  
岡田聡訳  
実存の神学か、実存の哲学か？

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税別)

は備えてくださること。

三、働き人は「労苦に応じて報いられる」とあるように、神が下さる報酬は、「成果」に応じてではなく、「労苦」に応じて与えられること。

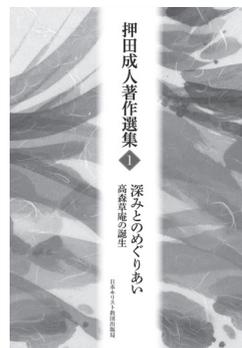
四、コリントの教会は「神の畑」であって、神こそが農夫であり、痩せ細った私たちという土地から実を生み出してください。

著者は御言葉の流れを素直にとらえ、わかりやすく語る説教者、そして困難な問題からも肯定的な恵みの力を引き出す説教者です。三巻揃えたら、評者のような者でも第一コリントから語ることが許されると思えてくる講解説教です。(ふじもと・みつるラインマヌエル高津教会牧師)

(B6判・三五二頁・本体二〇〇〇円+税・いのちのことば社)

## 私の中に響き続けるコトことば

〈評者〉 小暮康久



押田成人著作選集1  
深みとのめぐりあい  
高森草庵の誕生  
宮本久雄、石井智恵美編

カトリックの修道司祭でありながら、八ヶ岳山麓の高森草庵で農耕生活を営むかたわら、国の内外をとわず、根源的なよりどころや霊的なものを求める人々と交わり続けた押田成人<sup>しげと</sup>の著作選集の第1巻にあたる。

本書では、「深みとのめぐりあい——高森草庵の誕生」というタイトルが付けられている通り、生涯にわたる押田師の霊的道行きの原点とも言える姿に触れることができる。本書に収録されているのは、『遠いまざし』や『道すがら』などの書籍や、雑誌からの押田師の文章が中心となっているが、それに加え未発表原稿や師を知る人によるエッセイ、師の姿や高森草庵の生活を示す貴重な写真なども収録されている。また本書が師の生涯の霊的道行きをたどるように文章が並べられていることも、新しい視座をもたらしている。

りと眺めていたのである。

第二章「高森草庵といのちの泉」では、高森草庵の生活や村の「小泉」をめぐる水問題がテーマとして描かれている。環境問題がその本質においては霊性の問題であることも、同じように、師ははじめからはっきりと眺めていたのである。「青年たちが、虫がいない田んぼを見て泣くようになるまで、希望はない。虫がいっぱいの田んぼを見て、嬉しさと泣くようになるまでは、希望はないんだよ。そういう心を奪ったままなんだ。この文明の生活は」という言葉に触れる時、懐かしさと共に、この生命の危機の本質がさらに極まっている現代世界の「今」を痛みをもって思わずにはいられない。

三章の「コトことば」。師は、それが存在の出会いその

一章「胎動」では、若き師に召し出しを直言したホイヴェルス神父や、霊的自由の地平を示したタルト神父との出会い、また長き病床の療養の地として出会った高森の地で人々との円い<sup>ま</sup>から「高森草庵」が生まれていく姿が描かれ、師の「東洋的修道」ともよぶべき霊的道行きの原点が示されている。一章の終わりには、本書が初公開となる高森草庵の修道の原則（規則ではない！）である「高森草庵覚え書」が収められている。高森草庵は人間的意識の次元で計画され、作られたような事業や施設ではなく、ただただ神様の御手に出会い、彼岸の息吹にいざなわれた人々の生命の流れが、一つの流れになっていくように出会い生まれた「生命の流動」であることを、「覚え書」は示している。人間的意識の次元の規則が目的化（固定化）する時、それは「生命の流動」を妨げるものになることを、師ははっきり

もの——出来事——であり、その響きとしての言葉であり、出来事と言葉は分けようもないことを語っている。

大学生の時、初めて師に出会い、高森草庵のミサの中で体験した深い沈黙。それは、意識が表層にあることを許さないかのような、深みへ沈むことへのいざないであった。私は言葉を失った。それはコトことばであった。その後、修道司祭としての道を歩むことになった私の中に、今もそのコトことばは響き続けている。

（こぐれ・やすひさ）イエズス会司祭／無原罪聖母修道院  
（A5判・二五二頁・本体二七〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）



## 新刊 死生学年報 2020

### 死生学の未来

東洋英和女学院大学  
死生学研究所編  
●A5判並製 本体2500円＋税

古代の死生学から未来へ  
『ギルガメシュ叙事詩』を  
読みなおし続ける  
渡辺和子

●  
現代世界における  
「宗教」のヴィジョン  
鶴岡賀雄

●  
哲学的主題としての  
死後生の問題  
深澤英隆

●  
心の病に寄り沿うということ  
福田 周

●  
ひきこもり状態にある人々の実態  
渡部麻美

●  
この人生をどう終えるか  
人生の終末期における意思決定と  
死生観について  
奥野滋子

●  
「小さな死」と「救し」  
大林雅之

●  
復讐は生きがいとなるのか  
根岸紗那

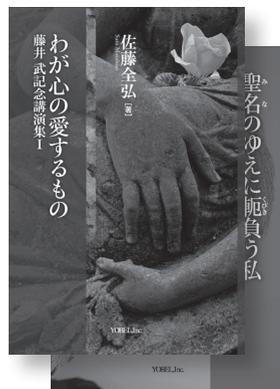
●  
他、7篇

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
TEL03-3238-7678 FAX03-3238-7638

## 眞実を求めた歴史哲学の 詩人にして伝道者

〈評者〉内坂 晃



聖名のゆえに軛負う人  
わが心の愛するもの  
藤井武記念講演集Ⅰ  
聖名のゆえに軛負う人  
藤井武記念講演集Ⅱ  
佐藤全弘著

著者はカント哲学を中心に、長年西洋哲学全般を講じてこられた方である。しかし世間では何よりも新渡戸稲造研究の第一人者として知られている。そしてもう一人、著者が渾心をこめて、長年研究してこられたのが藤井武である。藤井武といっても、今はキリスト教界の中でもその名を知る人は少なくなつた。ましてや藤井の著書を読む人は……。「わが心の愛する者」の帯には、次のように記されている。「……内村鑑三の高弟にして、激動の時代を預言者のごとく駆け抜けた藤井武。四十二年の生涯に限りない愛惜と敬慕を込め、その実像を今に伝える働きをライフワークとしてきた著者の講演集第一巻」。彼は内村鑑三をして「藤井は神様の外に恐い者を知らない」といわしめ、塚本虎二は「彼の生涯は、言葉通りに血みどろな生涯でありました。私はこれ以上長く生きていて呉れという勇氣を

「日本人は古代から天皇への忠義を尊んではしたが、天皇も神ではないから、天皇に依り頼んでもこの国の精神が眞理に目覚めることはありえない、それは幻である(二八頁)」ことを歌っていることは、一九二〇年代の終わりという時代背景を考へる時、驚きを新たにせざるをえない。私たちは「羔の婚姻」において、聖書の歴史観が古今東西の人類の精神史に対して、どれ程深く理解と評価と批判の視点を与えるかを知って驚く。ここではカント哲学、フランチエスコ、マルキシズム、ルーテル、武士道、日本の仏教史、国学等が取り上げられ詩に歌われる。藤井武の教養の深さ広さに驚く。しかしそれが詩文であるだけに一般読者にはきわめて難しい。それを解きほぐして解説してくれる人が必要である。その人は藤井以上に深く広い教養と詩

有ちません」と言つた。南原繁は「藤井武氏を知るほどの人は、彼の生涯が何よりも闘いの生涯であつたことを知らぬ者はないであろう」と書いた。その闘いとは、何よりも神の前に眞実を求める戦いであつた。義弟矢内原忠雄は「彼の遺したるものはただ香り高き眞実の人格と底深き純眞の信仰、これこそ姦悪の世にありて……永遠に輝く空の明星である」と記した。矢内原が大学を追われる決定打となつたのは彼が藤井武記念講演で述べた「日本の理想を生かすために、一先ず此の国を葬つて下さい」という言葉であつた。関東大震災の折、藤井は家の前に次の様な一文を貼り出した。「今度の出来事に際して、多くの自警団が同情すべき朝鮮人に対し、又軍隊が無力な社会主義者に対して取りたる態度は、赦しがたき人道的罪悪である……」。

またキリスト教の歴史哲学的長詩『羔の婚姻』の中で、人的素養とを備へ藤井の思想の現代への適用をしよう人であればならない。現代世界の諸問題への鋭い洞察の出来る人でなければならぬ。著者こそはまさにその人であり他に考へることは出来ない。著者の博識の広さ、正確さは驚嘆の他はない。そして何より筆者の心を打つのは、批判も含めて著者の藤井への敬愛の念である。読者は本書によつて、古今東西の歴史や思想について、真に良き学びをすることが出来る。しかしそれ以上に著者が読者に願つておられるのは、藤井武という眞実一途に生きた人格の息吹に触れることであり、それを通して神を讃美することであるとと思う。

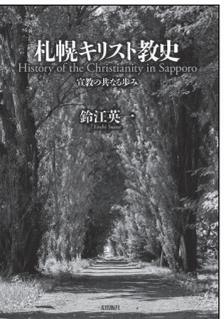
(うちさか・あきら 聖天聖書集代表)  
(四六判・I三二二頁・II四四四頁・各本体二五〇〇円＋税・ヨベル)



# 札幌キリスト教史

宣教の共なる歩み

鈴江英一  
Eiichi Suzue



人びとの思想形成と生活に与えた影響の大きさ

札幌における宣教の始めである1875年から戦後2004年までの〈通史〉。宣教のための必読の書。

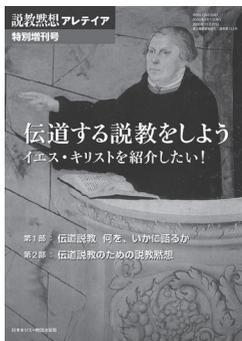
A5判  
定価【本体5,400＋税】円  
ISBN978-4-86325-120-5



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

## 教会の危機は説教の危機 教会の再生は説教の再生から！

〈評者〉 齋藤真行



説教黙想アレテア特別増刊号  
伝道する説教をしよう  
イエス・キリストを紹介したい！  
日本キリスト教団出版局編

説教黙想誌「アレテア」の特別増刊号として、『伝道する説教をしよう イエス・キリストを紹介したい！』という、現代の教会の最も重要な課題にまっすぐに切り込む冊子が出版された。

内容は第一部と第二部に分かれている。第一部では異なるコンテキストで伝道に従事する説教者による、「伝道説教」の視座が新鮮な切り口で描かれている。

組織神学や説教に根ざした、伝道や伝道説教についての考察に助けられる。また、教会・キリスト教主義大学・神学校・病院で御言葉の広がりのために仕える説教者が、各自が置かれた場所で御言葉の広がりのために学び、苦闘しながら見出してきた伝道の筋道が解き明かされている。

第二部では旧新約聖書の箇所を取り上げながら、熟練した牧者たちによる「伝道のための説教黙想」がなされてい

をとらえ直すことを提案しつつ、「今、われわれは再開拓伝道を始めなければならないからである」と告げられる。

私自身はこの「再開拓伝道」という言葉に、課題の重圧を覚えながらも、どこかしら「吹っ切れた」思いが与えられた。教会の職務を果たしつつ、「教会が衰退しないように守る」ことだけに意識を使うなら、それは消耗戦であり、自己防衛的な伝道になってしまうかもしれない。それは少なくとも、喜びのあるものとはなりにくいだろう。

しかし、信仰の意識において「再開拓伝道」の姿勢で課題に向き合うなら、それは主イエスの御国のための「攻め」の在り方でもあり、「神の約束の将来を望み見ながら、希望を抱いて伝道する」という方向性が生じるのではないか。

「しかし、そんなことが可能なのか」という問いに対して、加藤先生は「伝道は神の意思であり、計画である」ことを示す。「人間のわざが果てると思われる今日の状況におい

る。天地創造、詩編二三編、イザヤ書五三章、山上の説教、放蕩息子のたとえなど、教会の教えに馴染みのない方向けた伝道説教において、よく取り上げられる二五箇所が選ばれている。聖書に深く沈潜しながら、同時にそれが、特に「教会の外」に生きる方々にどう「真の福音」として伝わるのか。第二部はこの問いに説教黙想を通して応えようとする、一貫した姿勢で貫かれている。

本書の問題意識は、加藤常昭先生が記された「はじめに」の文章に示されている。弱体化し、衰退していく教会の厳しい現実を直視しつつ、「教会の危機は説教の危機である。教会の再生は、説教の再生を不可欠とする。説教の再生とは、伝道する説教の再生である」と記される。本書はこの課題に説教の在り方の再考を迫りつつ向き合うものだ。「編集後記」では、教会が建設されていなかった時代の伝道史

でこそ、われわれは神のわざに生きるのではなからうかと、神ご自身に依り頼むよう招かれている。

「伝道的説教を再生し、再開拓伝道の姿勢で伝道する」これが教会再生への処方箋だろう。これが可能となる根拠は、「神がそれを望まれ、意思され、計画してください」ことによる。人間のわざが果てるときにはじまる、新しい神の御業に生きることが、希望として差し出されている。

本書には教会の再生への「答え」がある。だが、それを「語る」ことによってだけでは、教会は再生されない。その答えを「生きる」人々、身に着けて証していく「人々」が求められている。各自が置かれている伝道の持ち場で、本書の内容は読まれるばかりでなく実践され、実践されるばかりでなく、説教者の血肉となることへの招きである。

(さいとう・まいく 日本基督教団甲府教会牧師)

(B5判・二二八頁・本体二〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)

# エルサレムへようこそ！

〈評者〉**焼山満里子**



**ヨシヤの改革**  
申命記とイスラエルの宗教(学生用教本)  
David Tabb Stewart・Adam L. Porter 著  
魯 恩碩 編訳

本書は David Tabb Stewart・Adam L. Porter: *The Josianic Reform: Deuteronomy, Prophecy, and Israelite Religion*, Student Manual Version 2.0 を訳者の魯恩碩氏が日本の教育現場に合うように改訂しつつ訳されたもので、Reacting to the Past (RTTP) という米国で開発された教育ゲームを用いて旧約聖書を学ぶための学生用教本である。魯氏は国際基督教大学で旧約聖書を教えておられ、RTTP の教育効果を実感しておられるという。ある時評者は、魯氏の授業を受講している学生が「旧約の授業でダイベートをする」と、はりきっていたのをおぼえている。本書を読み、あの学生が言っていたのはこれだったのかと納得がいった。RTTP (過去を再演する) とは、学習者が過去、歴史を再演することで歴史に興味を持ち主体的に学んでいくよう導く方法である。本書では列王記下 22 章に書

かれている、ヨシヤの改革を巡って学生達が改革時に生きる人々として改革の是非を議論するように招かれる。はじめに「エルサレムへようこそ！」ではヨシヤの改革について紹介される。紀元前六二二年、エルサレム神殿がヨシヤ王によって改修された時、大祭司ヒルキヤが「律法の書」と呼ばれる巻物を発見した。その巻物に書かれている教えは、当時のユダヤの宗教的慣行を大規模に改革し一神教、偶像礼拝禁止を徹底し、結果としてエルサレム神殿に聖所を中央集権化しよう促している。この巻物は本物なのか。この改革が実行されれば、さまざまなグループの人々が影響を受ける。授業では王がその改革について議論するために会議を招集したとして、学生は、革命に対するいろいろな意見を学びつつヨシヤの改革の是非を議論することになる。次のセクション「ヨシヤの改革ゲーム参加者

への期待」では授業で行われる再演、ゲームがどのように進むか解説され、その後のセクションでは、ヨシヤ改革を切り口として旧約聖書、イスラエルの歴史、周辺世界の宗教事情についてより詳しく学ぶための手引きがある。

授業では受講生が四つのグループ(王政派、祭司、預言者、庶民)に分かれて改革の是非を問う。各グループの立場はゲームを指導する教師からあらかじめ配布されるキャラクターシートにまとめられているが、さらに理解を深めるために学生は聖書のヨシヤ改革、「律法の書」に関する箇所、他に示された参考文献を読み、より説得力があるように自分の立場からの発言を考えてから討論に臨む。第一ラウンドでは王政派のグループが改革のために必要な法案を、第二ラウンドでは国際政治や外交政策に関する法案を

準備し、それらについて皆で審議、投票することになる。このゲームを興味深くしているのは、結論は実際の歴史にそわなくてよいところである。学生が当時の状況を理解し、独自の議論をすることで将来は変わってくる。

学生がより活発な議論ができるように指導するための教師用教本も今年五月頃には出版される予定であるという。この新しい試みは、聖書をより楽しく、主体的に学ぶきっかけとなるであろう。評者は新約聖書を教え、学ぶ上でこの方法を取り入れたいと考えている。編訳者の聖書学、教育に対する熱意から生まれた刺激的な一冊である。魯氏の労に感謝し、多くの人が手にするよう願ってやまない。

(やさやま・まりこ) 東京神学大学教授  
(菊判・八四頁・本体九〇〇円+税・博英社)



# エルトムート・ドロテア フォンツインツェンドルフ伯爵夫人

エリカガイガー 著  
梅田 與四男 訳

●四六判並製 一三〇頁 本体二〇〇円+税  
本書はモラヴィア人信仰難民たちとの関わりにより敬虔主義の指導者となったツインツェンドルフ伯爵の妻となり、彼女なくしてヘルムート同胞教団は存続しなかったといわしめた伯爵夫人エルトムート・ドロテアの伝記である。一八世紀前半における同時代の女性指導者についてのこの種の伝記は類書が極めて少ない。

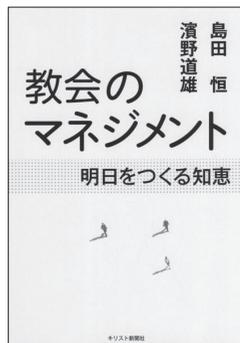
ISBN978-4-86376-077-6

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

教会のミッションを  
守り続けるために

〈評者〉 宇田川元一



教会のマネジメント

明日をつくる知恵  
島田 恒、濱野道雄著

本書は、教会の運営を考える上で、非常に有用である。教会とマネジメントとは、一見すると相性が悪そうに思われるが、実は教会こそ非常に難しいマネジメントが求められる領域である。ではなぜ必要なのか、その時に、何を大切にすべきなのかについて論じたのがこの一冊だ。著者は、牧会学を専門とする西南学院大学の濱野道雄氏と経営や経営学領域で実務と研究に携わられた島田恒氏の二人で、著者の特徴を生かした三部構成となっている。第一部は、教会論から考えるマネジメント、第二部はマネジメントから考える教会論、第三部は著者同士の対談である。第一部では、経営学の知見から教会の運営において考えるべきことが論じられ、第二部では教会論の立場からマネジメントをどう行うかについて考えている。第三部は、著者同士が教会のマネジメントのリアルな課題、例えば「教会を閉じ

る」ということについてまで踏み込んでおり、興味を惹かれた。

る」ということについてまで踏み込んでおり、興味を惹かれた。マネジメントの発想を企業組織以外に導入しようとする著作はこれまでもいくつか読んだことがある。例えば、非営利組織や文化組織、あるいは行政組織への導入に関するものがそれだ。しかし、通常そうした著作は、それぞれの領域「について」マネジメントの観点から論じるものが多く、それぞれの領域の「観点から」マネジメントを論じることは少なかった。本書は、神学と経営学にそれぞれ基盤をもつ二人による著作、そして、それを生かした構成上の工夫があり、教会という組織の特性を基盤として、靈性にも配慮しつつ議論が展開され、教会に集う信徒にとっても受け入れやすい内容となっているのではないだろうか。これは、本書の重要な特徴であると言える。

て考えていることはかなり異なっているということだ。しかし、そのことについて教会内で対話をどれほど重ねていくだろうか。加えて、崇高なミッションがあったとしても、それを実践するために、人や組織として動員可能な資源がなければならぬ。重要なミッションを守り続けるために、変革すべきものは大胆に変革していくか、このことが必要である。教会組織をマネジメントするということは、牧師にとっても、教会員にとっても、なかなか難解なテーマだ。しかし、社会の大きな変化の時代において、教会の果たす役割は本来大きいはずである。本書はそうした中において、教会の運営を再度考えるきっかけになる本ではないだろうか。

私は経営学者として、企業組織などの経営組織を対象とした研究を行っている。その立場から教会という組織を考えた時、本当に教会のマネジメントというのは難しいのではないかと想像する。まず何を成果として考えるべきか、実はなかなか定めるのが難しいことが想像されるからだ。さらに、それが定まったとしても、それを具現化する実践にどのように取り組むのか、質的にも量的にも難しさがあるだろう。

この本を読んだ方々には、自分たちの教会におけるミッション、成果とは何なのか、じっくりと対話を重ねていただきたいと思う。私は、今までもいくつかの教派の教会の礼拝に出席した経験があるが、そこでわかることは、教派によっても、また同じ教派でも教会によっても、成果とし

（うだがわ・もとかず 埼玉大学経済経営系大学院准教授

V T J 旧約聖書注解  
コヘレト書

小友聡  
東京神学大学教授  
日本基督教団中村町教会牧師



「コヘレト書は黙示思想へのアンチテーゼである」との立場から同書を読み解き、「ほんの束の間である生を生き抜け」という使信を明らかにする。A5判・210頁・3520円

世界最高峰のローマ書注解

註解 **ローマの信徒への手紙**  
C・E・B・克蘭フィールド 山内眞訳  
定評ある英国の註解シリーズ  
ICC『ローマ書』の簡訳改訂版、待望の邦訳。最難関にして最重要なパウロ神学の到達点を学ぶ全ての信徒・教職必携の名著。  
A5判・546頁・11000円



日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp 《価格10%税込》  
<http://bp-ucci.jp>

## 子どもの成長を通して 生涯の課題をやさしく語る

〈評者〉小島誠志



### 神さまが見守る子どもの成長

誕生・こころ・病・いのち  
石丸昌彦著

著者石丸昌彦さんは精神科の医師です。著者の所属する教会の、教会学校に出席する子どもたちの保護者向けの通信に執筆された四年間に亘る文章を編集したものであります。

子どもの成長、そのプロセスで起こってくる様々な問題を取り上げその取り組みについて共に考えるよう促しています。どの問題についても精神科の医師としての、また信仰者としての深い洞察がありますが、決して押しつけがましい語り口にはならず、やさしい対話的姿勢に貫かれており、うなずきながら読むことができます。

全体は「春の便り」「夏の便り」「秋の便り」「冬の便り」に分類されそれぞれに季節にふさわしいテーマが取り上げられています。春はいのちの誕生、夏はこころとからだ、秋は障害や病氣、冬は死からのちへ、など。

こうした順序に従って読んでいくと、なるほどと納得で

られた命に共にあずかる74億人の兄弟姉妹が、こうして地上に広がっています。「春の便り」「ミトコンドリア・イブ」

「『きょうだい』という血を分けた他人と一つ屋根の下で暮らすことが、どれほど大きな養いになるかしれません。

その何よりの効用は無限大の自己愛をほどよいサイズに削り込み、他者と共存することを学ばせてくれるところにあります。」(夏の便り「自己愛について」)

「……突き詰めていくと、『子どもはつくるものか、さずかるものか』という問題にたどり着きます。『つくる』ものなら、つくることを『やめる』という選択肢もありうるでしょう。しかし『さずかる』ものだとしたら、『子どもに不具合があるから中絶する』という判断は、ありえないのではないのでしょうか。」(秋の便り「つくる」ことと「さ

きます。要するにここには人間の生涯に関わる問題が取り

上げられているのです。子どもが成長のプロセスで直面する問題であるだけでなく、その両親も、——すべての人間の扱うべき課題が取り上げられているのです。その意味でキリスト教信仰による人生論として読むこともできます。

各章の中からアト・ランダムにいくつかの文を引用してみましよう。

「研究者たちは……ミトコンドリア遺伝子のルーツをたどり、長大な系図を作っていました。その結果『現存するすべての人類は、今から12〜20万年前にアフリカに住んでいた一人の女性を共通の祖先にもつ』ことが明らかになったのです。……この女性にはミトコンドリア・イブというニックネームがつけられています。」「ひとりの女性に由来するミトコンドリアを分け合い、ひとりの女性に与え

ずかる」こと)

著者の身内の少女の死と葬儀についての一文より。  
「……伯父の一人が『教会のお葬式は明るくていいな』とポツリと言いました。……彼に『明るい』とつぶやかせた何かがあるところにありました。教会の礼拝やミサは常に人の死の先を見すえ、死を乗り越える復活の希望を告げるものです。」(冬の便り「個人的なこと」)

著者がなぜ法学部を卒業して精神科医の道を選ばれたのか、前々からお尋ねしたいと思っていました。この本を読んで納得させていただいたと思います。

(おじま・せいし||日本基督教団久万教会牧師)  
(四六判・一六〇頁・本体一六〇〇円+税・日本キリスト教団出版局)

新刊

一神教世界の中のユダヤ教

市川裕先生献呈論文集

勝又悦子・柴田大輔・志田雅宏・高井啓介 編

〔市川裕先生献呈論文集〕

## 一神教世界の中のユダヤ教

勝又悦子 柴田大輔 編  
志田雅宏 高井啓介

●A5判上製 本体5,000円+税

古代メソポタミアの一神教 柴田大輔 / メソポタミアのマクルー儀礼における火と水の力 細田あや子 / 「アバル・ナハラ州の総督」とアール・ヤブドゥ共同体 高井啓介 / 魅力ある女は、名誉を掴む 自分自身に報いる者だ、友愛に富む男は 加藤久美子 / 第二神殿時代におけるガリラヤのリーダーたち 上村静 / 「民」と「自由」と「偶像崇拜」 勝又悦子 / ハイム・イブン・ムーサ『盾と槍』 志田雅宏 / 近代的ユダヤ人ステレオタイプの形成 李美奈 / ほか7篇を収録。

ISBN978-4-86376-078-3

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

## 新翻訳を多角的に 味わうための書

〈評者〉 山口希生



関西学院大学神学部ブックレット  
聖書と現代

53回神学セミナー

関西学院大学神学部編

本書の書評依頼があった時、不思議なめぐり合わせのようなものを感じました。なぜなら、私がこの三月まで奉職していた教会では新共同訳が公用聖書であるのに対し、四月から新任牧師として遣わされた教会では新改訳(第3版)を用いており、新約学で教鞭を取っている東京基督大学では新改訳2017を、そして翻訳や学術論文の執筆では聖書協会共同訳を使うことが多いからです。こうした環境で仕事をしている都合、複数の聖書間で翻訳や解釈の違いについてはいつも気を配ってきました。

本書では、聖書協会共同訳聖書について、神学者や教会教職、学校教師や聖書翻訳事業者、そして聖書協会共同訳の翻訳そのものを中心的に担った聖書学者など、様々な論者による多様な切り口からの論評がなされています。新改訳2017はその名の通り二〇一七年に公刊されましたが、

とされるのは……ただイエス・キリストの真実による」(聖書協会共同訳)に変わっているのに初めて気が付いた礼拝者は、かなり驚かれたのではないのでしょうか。

このような新旧の訳には一長一短があり、どちらがよりオリジナルの聖書テキストの意味(つまりパウロの意図)に近いのかについては今後も喧々諤々の議論が積み重ねられていくでしょう。こうした聖書解釈を巡る学者の議論にはあまり関心のない礼拝者の方は、神のことばである聖書テキストの意味が確定しないというのでは困る、と思われるかもしれません。特に、愛唱聖句の訳が大きく変わることは強い抵抗を感じることもあるでしょう。しかし、家山華子氏が書かれているように、「この新しい訳によって、解釈のポイントを考え直すことも可能です。もしかすると、

聖書協会共同訳は翌年の二〇一八年に公刊されました。僅か一年の違いながら、その一年にはシンボリックな重みがあると受け止めています。新改訳2017は宗教改革五〇〇周年の記念の年に出版するということからして、宗教改革以降に培われてきた伝統的な聖書解釈の枠組みを踏襲しようという明確なメッセージを発しているものと思われまます。それに対し、宗教改革記念の年の翌年に公刊された聖書協会共同訳には、宗教改革の精神を受け継ぎつつも、その解釈においては伝統を乗り越えていこうという姿勢を感じました。そのような姿勢を端的に表しているのが、「キリストのピステイス」の解釈でしょう。それについては神学講演②の東よしみ氏が詳しく説明されているので内容は省きますが、ガラテヤ書2章16節の「ただイエス・キリストへの信仰によって義とされる」(新共同訳)が「人が義

私たちの人生に大きな影響を与えた聖書箇所ほど、私たちが新しい翻訳に問われるように読むことで、信仰のチャレンジが与えられるのかもしれない。私自身も聖書学者の端くれとして、より正しい解釈を求めて悪戦苦闘していますが、自分とは全く異なる解釈から得られるものも多いのです。その意味で、水野隆一氏の提言は傾聴に値するでしょう。「聖書の読みを、研究という原理主義を含めて、原理主義的な読みから解放するような読み方をするために、複数の読みを提示することにこそ、現代における聖書学の役割があるように思います」。

(やまぐち・のりお) 日本同盟基督教団中原キリスト教会牧師  
(A5判・一四六頁・本体一六〇〇円＋税・キリスト新聞社)



## 改訂版 キリスト者への問い

あなたは天皇をだれと言うか

松谷好明  
Yoshiaki Matsutani



いま、キリスト者として  
考えなければならないこと

信仰告白的に生きるとは  
どういうことかを真摯に問う。  
キリスト者として  
日本人として生きる上での  
重要な指針を  
与えてくれるであろう。

四六判変型  
定価【本体 1,700 + 税】円  
ISBN978-4-86325-117-5



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www.jp-shop.com	zeninkan_syoten_0530@afoc.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・17F	022-223-2736	共用	http://www.keisen.christian.jp	fcqwkw524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延町2-2 榎ケルキセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722	http://www.kyobunkwan.co.jp	seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbdo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.jp/~yohatara-cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0854	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.cococan.jp/	nagoya-seibunshara@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口邊河原町東1ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masajama_1007/mex.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖繩キリスト教書店	903-0207	中環読道字線777 沖繩キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

### 既刊案内 (2020年2月～3月) (定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
日本キリスト教団出版局編	説教黙想アレテア特別増刊号 一伝道する説教をしよう	B 5	128	2,000	日本キリスト教団出版局	2/12
石丸昌彦	神さまが見守る 子どもの成長	四六	160	1,600	〃	2/21
富坂キリスト教センター編	奪われる子どもたち	四六	236	1,800	教文館	2/20
野村信、吉田新編	苦難と救済 一闇の後に光あり	四六	400	3,200	〃	2/20
高橋由典	続・社会学者、聖書を読む	四六	280	1,800	〃	2/20
佐藤真基子、片柳榮一、水落健治訳	アウグスティヌス著作集19/ 一詩編注解(3)	A 5	740	7,500	〃	2/25
稲正樹、中村睦男、水島朝穂編	平和憲法とともに 一深瀬忠一の人と学問	四六	353	2,000	新教出版社	2/29
勝俣悦子、柴田大輔、志田雅宏、高井啓介編	一神教世界の 中のユダヤ教	A 5	423	5,000	リト	2/1
安積力也、川田殖責任編集	森明著作集[第二版]	四六	532	1,500	ヨベル	2/1
佐藤全弘	わが心の愛するもの 一藤井武記念講演集I	四六	372	2,500	〃	2/1
佐藤全弘	聖名のゆえに軛負う私 一藤井武記念講演集II	四六	444	2,500	〃	2/1
原野百合	ベツレヘムの星	四六	188	1,300	〃	2/10
明治学院テキスト作成委員会編	ヤバいぜ! 聖書版 一第2	B 5	91	1,000	新教出版社	3/10
月本昭男	詩篇の思想と信仰V 一第101篇から第125篇まで	四六	424	3,900	〃	3/25
ジェイムズ、H.コーン著 榎本空訳	誰にも言わない と言ったけれど	四六	280	3,000	〃	3/31
ヴォルフガング・フーバー著 宮田光雄監修	正義と法	A 5	752	9,500	〃	3/31
小友聡	V T J 旧約聖書注解 コヘレト	A 5	210	3,200	日本キリスト教団出版局	3/25
C.E.B.克蘭フィールド著 山内眞訳	註解ローマの 信徒への手紙	A 5	546	10,000	〃	3/25
片柳弘史	あなたはわたしの愛する子 一心にひびく聖書の言葉	B 6 変	180	1,000	教文館	3/20
小島誠志	見出された命 一聖句断想6	小 B 6	200	1,800	〃	3/30
森島豊	抵抗権と人権の思想史 一欧米型と天皇型の攻防	A 5	464	3,000	〃	3/30
D.アレクサンダー著 小山清孝訳	創造か進化か一我々は選 択せねばならないのか	A 5	504	2,800	ヨベル	3/10
越川弘英	キリスト教史の学び(上)	A 5	312	2,000	キリスト新聞社	3/25

# 福音と世界

2020年06月号

## 特集

### ヒップホップの福音

寄稿者 山下壮起、一木信、高島鈴  
五井健太郎、飯田華子、MCビル風(取材)

好評連載 I Say a Little Prayer 開かれる世界(栗田隆子)、いまを生きるみここば(金迅野)、バジルの路上の Conjecture of a Son of a Preacher Man(マニエル・ヤン)、くまさんのシネマめぐり(好井裕明)、教父学入門(土井健司)、新約釈義 第一テモテ書(辻学)ほか

A5判・本体600円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

## 編集室から



四月八日、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、東京を含む七都府県に緊急事態宣言が発令された。正月明けののんびりした気持ちで「中国武漢で正体不明の病気が発生した」とのニュースを聞いた頃は、まさか世界中がパンデミックの脅威に曝されることになるとは想像もしていなかった。外出の自粛や企業へのテレワーク推奨、休業要請など直面したことのない感染予防待った無しの状態で、孤立したような気分さえなる。海に囲まれた日本にいます、かつて歴史的大流行をした伝染病であっても対岸の火事のように思っていたが、ここまでグローバル化が進んだ現代においては迫り来る脅威のスピードが段違いだろう。実際、諸外国の様相を約半

## 予告

### 本のひろば

2020年7月号

## 本・批評と紹介

(巻頭エッセイ)「本と旅して」松村さおり、(特集・この三冊!)「優れたデザインで学ぶキリスト教」三輪義也、(書評) 稲 正樹/中村陸男/水島秋穂編『平和憲法とともに』、芦名定道著『現代神学の冒険』、ジェームズ・H・コーン著『誰にも言わないと言ったけれど』他

月遅れで追隨している。

二一世紀以降の未知の伝染病との攻防で、カール・タロウ・グリーンフェルド『史上最悪のウイルス——そいつは中国奥地から世界に広がる』(上下巻、山田耕介訳、文藝春秋、二〇〇七年)を思い出した。二〇〇二年一月に発生し、WHOが「グローバル・アラート」を出した伝染病SARS(重症急性呼吸器症候群)の発生から収束までを追いかけたドキュメントは、患者の症状や治療者の苦闘、国家と世界の動向と対策をつぶさに語っていた。

歴史は繰り返す、と言うけれど、人は常に進化していると信じていたい。孤立から悟るべきは、私たちの生にとって、他者との生がいかに不可欠であるか、である。(奈良部)

近刊予告

2020年夏  
刊行予定

日本キリスト教歴史人名事典

鈴木範久 監修  
日本キリスト教歴史大事典編集委員会 編

最新の研究成果や新事実を反映した約5150人のキリスト教関係者を網羅。日本キリスト教史研究の里程碑ともいべき必須の基礎文献。

● B5判・函入・1016頁・本体45,000円 (旨期購入価格 本体42,000円)



「改革教会の礼拝と音楽」編集委員会 編  
初版刊行以降全楽譜を検証、  
原資料に基づき改訂を加えた決定版!

ジュネーヴ詩篇歌150篇、十戒、マリアの讃歌、シメオンの歌、使徒信条、コラール100篇を収録した初版(エルピス、2006年)のすべての歌を10年にわたり合唱グループが歌って楽譜を検証、また16世紀以降の原資料に当たり直し、誤りを正し、改訂を加えた決定版。さらに「ジュネーヴ詩篇歌歌詞初行索引」を新たに追加。

● B6判・上製クロス装・152頁・本体3,000円

みことばをうたう 改訂版

好評既刊 賛美とは何か、その歴史は…

賛美、それは沈黙のあふれ

新垣千敏 著



日本語の言葉とリズム・旋律を大切にした音楽の創作を提唱する著者が、賛美とは何かを求めて書き綴る

心にあふれる賛美と感謝、主への祈りを、美しい日本語で、日本人の心に響く言葉とメロディーによって歌うこと、「マラナタ」をはじめ多くの典礼聖歌を創作してきた著者が、音楽と信仰についての理論と実践をまとめた論文集。

● A5判・208頁・本体1,800円

キリスト教音楽への招待

聖なる空間に響く音楽

佐々木しのぶ / 佐々木悠著



キリスト教から派生した音楽と『聖書』との関わりを問い直し、その源泉を見つめ直す

ヨーロッパ音楽の源流となった教会音楽の歴史をコンパクトに解説。讃美歌、礼拝、教会建築、楽器など、教会音楽をはじめて学ぶ人にとって必要不可欠な入門書。写真・図版を多数収録し、見ても楽しい充実の一冊。

● A5判・130頁・本体1,800円



# 逆風に抗して

ドロテー・ゼレ回想録／三鼓秋子訳

4月24日

戦後神学界に常に新鮮な問題提起を行ってきた女性神学者の不屈の精神と知性、美的なものに開かれた感性が随所にきらめく稀有な人格を生き生きと伝える自伝の傑作。

# 誰にも言わないと言ったけれど

黒人神学と私

ジェイムズ・H・コーン／榎本空訳

3月25日

現代神学史に決定的な一歩を刻み込んだ著者が、自らの神学形成の道程を率直に綴った自伝の邦訳。ついに刊行。

# 正義と法

ヴォルフガング・フーバー／宮田光雄監修

キリスト教法倫理の基本線

法の神学的基礎を探り、人権を最重要価値として複雑な現代世界における法治国家のあるべき姿を論じた大著。著者はキリスト教社会倫理の泰斗、エキユメニカル運動に貢献。

# 現代神学の冒険

新しい海図を求めて 芦名定道

2月25日

該博な知識と鋭い分析力によって現代神学の思想的課題を明らかにし、進むべき方向性を展望する。キリスト教の現在と未来を考えるために必携の海図がここに！



◆A5判・本体3400円



◆四六判・本体9500円



◆四六判・本体3000円



◆四六判・本体2900円

## 詩篇の思想と信仰 全6巻完結!

月本昭男 厳密な試訳、詳細な語釈、各詩の構造と成り立ちの分析、そして思想と信仰について、深く行き届いた解説。

- |     |             |           |    |               |           |
|-----|-------------|-----------|----|---------------|-----------|
| I   | 1 篇 - 25 篇  | 本体 3200 円 | IV | 76 篇 - 100 篇  | 本体 3200 円 |
| II  | 26 篇 - 50 篇 | 本体 3800 円 | V  | 101 篇 - 125 篇 | 本体 3900 円 |
| III | 51 篇 - 75 篇 | 本体 3300 円 | VI | 126 篇 - 150 篇 | 本体 3400 円 |

